

『非行に走らないために』

小城市立小中一貫校芦刈観覧校 8年 井原 一汰

『非行』と『犯罪』について、深く考えたことがなかったので、考えてみました。犯罪はなんとなくわかるけど非行はわからないので調べて考えてみました。

『非行』は「人として守るべき道を外れた行い」を指しています。誰もが最初から道を外れようとしている訳ではありません。一人でも多くの仲間が非行に走らないように、私は三つの「もつ」が必要だと思います。

一つ目は、「自分で考える力を“もつ“」ことです。

一学期に学校でいじめについてのアンケートがあり、私は数日後、先生に呼ばれた。私がしたことや言った事に傷ついている、耐えられない友達がいると言われた。最初はピンとこなかったが、具体的に話を聞いて、「そういえばそんな事があったな」というそのくらいの気持ちだった。でも、相手がとてもつらい気持ちだった事、これがいじめにつながると先生にいわれ、そんなつもりじゃなかったの、とてもショックだった。母も学校から話を聞いており、家族で話合った。性格や体格、育った環境など、全く同じ人は一人もいない。考える事、感じ方もちがって当たり前だ。授業中でも自分と反対の意見をもっている人は必ずいるし、「変わった考え方するな。」と思う人もいる。自分の意見をまっすぐ通すだけではなく、まわりの様子を見て、聞いて、考えてから行動する事が必要だと思った。先生にいわれなければ、同じ事をくり返していたと思う。一人ひとりが考え、参加するきっかけをつくる事が大切だと思う。

二つ目は、「良い仲間を“もつ“」ことです。自分が誤った道に進んでしまいそうな時、止めてくれるそんな「良い仲間」を、もつことです。仲間に相談するこ

とで、自分の気持ちを理解してもらったりできて、気持ちがらくになると思います。

三つ目は「ノーと伝える力を“もつ”こと」です。強い意志をもっていても、断ることができなければいけません。例えば、自分より年上に人や力の強そうな人から、たばこやドラッグを勧められた時、「結構です」と断れる強さが必要です。それでも、押しつけてくる場合は、そこから逃る勇気が必要です。たばこやドラッグによって、身体や将来を犠牲にすることはできません。だから、勇気をもって言葉で伝えたり、逃げたりすることができる自分にならないといけないと思う。

『非行』をしないためには、これらの三つをもち、強い気持ちで行動したり、客観的に自分を見たりすることが大切です。これには、「今の自分」にもできることがあります。自分だけではなくみんながこれらを理解し、実行することができれば道を誤らず、素直に大人への道を歩き続けることができ、明るくよりよく過ごせる社会になると私は思っています。